

文化高知

2010年9月 NO.157



「明日、明後日の香り」
瀧石公子

〈もくじ〉

釣り人のひとりごと 釣り人よ、もっと高知へ！	平田恭史	2
殿様の居合	木村幸比古	3
「防災文化」と自主防災会	坂本茂雄	4～5
コンピューターおじいちゃん 老いを楽しむ	門田喜作	6～7
あなたも参加できる！「高知の音楽文化」の応援！	玄瓶 充	8～9
鉄道っておもしろい！(4)	大内雅博	10
言葉の現場から23 「鼻」のなぞを読み解く	広井 護	11
高知のギャラリー⑰ Café & Gallery Pool	山本美代	12
高知市文化振興事業団 7月～8月の事業から		13
風俗歳時記・風伯		14～15

私

は今年の春、岩手県から高知に転動してきました。岩手と高知では気候や文化が全く違うことに戸惑いながらも、家族で高知での生活を楽しんでいきます。

釣りが最大の趣味である私にとって、以前より高知は憧れの地でした。行ったことはなかったけれども、頭の中には沖の島・柏島・野見湾などの釣り場の名前が叩き込まれていました。当然、高知に来てからは毎週のように、磯の石鯛釣り・筏の黒鯛釣り・船からのルアーフィッシングと、県内を走り回っています。私だけでなく、日本中の大多数の釣り人にとって、高知は「憧れの地」であることは間違いありません。

この「文化高知」では、多くの方が、高知県の強み・セールスポイントについて話されていますが、「釣り場」としての魅力も大きな強みだと断言できます。

高知県にとって、「釣り」は大きな観光資源です。釣り人は「一ミリでも大きな魚を釣りたい」「一匹でも多くの魚を釣りたい」「景色のいい場所で釣りたい」という欲求を持っていて、そのために時間やお金をかけ、相当な努力をしてそれを叶えようとしています。



「憧れの地」高知で釣り三昧！

釣り人のひとりごと 釣り人よ、もつと高知へ！

平田恭史

先日も友人が、京都府舞鶴市から片道八時間かけて、丸一日釣りをするためだけに来ました。そして釣りを満喫して、「また来る」との言葉を残して帰っていきました。

大きな魚がいて、多くの魚がいて、景色の良い釣り場がたくさんある高知は、県外から釣り人を呼べる要素が揃っているのです。

高知に釣り人をもっと呼び込むためには、釣り人の立場から言うと、「情報を発信すること」に尽きると

思います。特に今重要だと思うのは、インターネットでのリアルタイムの情報発信です。

釣り人は臆病です。釣りは自然が相手なので、「想定外の事」がつきものです。ですから余計に事前に十分な情報を欲しがります。欲しいのは、どんな釣り場があるのかや、今どこで何の魚がどれだけ釣れているのか、という基本的な情報だけでは

釣り人は臆病です。釣りは自然が相手なので、「想定外の事」がつきものです。ですから余計に事前に十分な情報を欲しがります。欲しいのは、どんな釣り場があるのかや、今どこで何の魚がどれだけ釣れているのか、という基本的な情報だけでは

釣り人は臆病です。釣りは自然が相手なので、「想定外の事」がつきものです。ですから余計に事前に十分な情報を欲しがります。欲しいのは、どんな釣り場があるのかや、今どこで何の魚がどれだけ釣れているのか、という基本的な情報だけでは

釣り人は多少交通が不便でも、遠くても、十分な情報が得ることができれば必ず「誘惑」に負けて、釣りに来ます！ 手間はかかるけれども、お金はあまりかけずに観光客を増やす手だと思えます。

そんなことを考えながら今日もまた釣りに出かけるのです。

（ひらたたくし／キリンビール株
式会社高知支社長）



山内豊健先生演武（稀少） ©京都豊剣会

殿様の居合

木村幸比古

居合証書として献上した。

土佐の居合は龍馬の修めた小栗流と関係が深い。小栗流二代目の朝比奈半左右衛門は土佐藩お抱えになり小栗流を根づかせ、二代藩主忠義、三代忠豊、四代豊昌に和術師匠役と馬廻役をつとめ知行二百石を得ている。小栗流四代目の足立茂兵衛正靖は土佐英信流（無双直伝英信流）九代目林六太夫の三男で、小栗流に居合十五本を加えた人物という。龍馬がもらった小栗流和兵法事目録（嘉永六年）にその居合の技の名称の記述がある。小栗流はすべて絶えたのではなく居合の技前は、現在の土佐英信流に残っていたのである。

林六太夫の祖先は池田豊後とい



倉橋先生胸像（京都）

姉千鶴の夫高松順蔵は居合の名人で足の指にはさんだ銀杏の実を電光石火の抜き打ちで斬り割ったという。

大殿様の孫の子爵豊健公と山内家の人々は無双直伝英信流十七代目の大江正路先生から居合の指南を受けた。このとき殿様の家族にふさわしい技前に一部変えた。豊健公は無双直伝英信流十八代目を大江先生より献上され山内派とよばれるようになった。

豊健公の高弟である居合道範士倉橋常茂先生は香美市土佐山田生まれで、京都府警の警察官をながらく務め、八坂消防署長となり、定年後は京都高知県人会副会長、高知県の学生寮土佐塾の寮監を無給で務めた。昭和三年、豊健公は大日本武徳会の講師として剣道範士内藤高治から招聘で入洛した際、倉橋先生は山内派

大

河ドラマ「龍馬伝」の大殿様こと山内容堂公は、酔えば勤王覚めれば佐幕と幕府に配慮しながら藩政を牛耳った。日々ストレスはたまるばかり、酒色におぼれ勤王弾圧で武市半平太を断罪した。大殿様の余技は居合抜き、指南役を無双直伝英信流十五代目谷村亀之丞がつとめた。山内家の能舞台でまず谷村が披露し、大殿様が同じ技を抜くが見事な品格ある技前だった。大殿様は谷村の技前を「土佐は居合が一番じゃ」と褒めたたえたという。大殿様は健康を兼ねた居合抜きで腕前あげた。谷村は門人にあたえる免許目録を大殿様に渡すことをはばかり、

藩主豊昌から八代藩主豊数まで料理頭をつとめられたのは居合の腕前から包丁さばきが絶妙な使いであったという。映画の「武士の一分」のような毒味役をつとめたのだろう。のち知行百五十石の馬廻役となった。龍馬は長州へ行った折、得意の居合で試斬りを披露している。龍馬の

豊健公の高弟である居合道範士倉橋常茂先生は香美市土佐山田生まれで、京都府警の警察官をながらく務め、八坂消防署長となり、定年後は京都高知県人会副会長、高知県の学生寮土佐塾の寮監を無給で務めた。昭和三年、豊健公は大日本武徳会の講師として剣道範士内藤高治から招聘で入洛した際、倉橋先生は山内派

きむらさちひこ／霊山歴史館学芸課長・京都豊剣会三代目会長
居合道教士八段

木村幸比古演武（全日本居合道京都大会に於いて）



「防災文化」と自主防災会

坂本茂雄

毎

年九月一日は「防災の日」で、この日を含む一週間を防災週間として「防災思想の普及、防災訓練等これにふさわしい行事」が実施されることとなっており、高知市でも、行政単位、自主防災会単位でさまざまな取り組みが行われていることと思います。

「高知県南海地震による災害に強い地域社会づくり条例」の「基本理念」には「一人一人ができることから取り組むことの必要性を広く呼びかけながら、取組の輪を広げ、全県的な運動として展開していき、南海地震への備えを習慣としていくことで、生活、仕事及び教育の中に防災文化を根付かせていくこと」と、防災と地域のコミュニティが一つになった「防災文化」が根付くことで、災害に強い町になることへの思いが込められています。



非常食を使った炊き出し訓練

防災の世界ではよく知られた逸話に、「土手の花見」というものがありますが、市内の小学校区のいくつかでは「あそぼうさい」なる防災イベントや訓練が定着しつつあります。とにかくみんなが参加できて、楽しく長続きがするようにとの思いによって自主防災会が組織されること、が、「防災文化」の定着の面から必要ではないかと思っっているとこ

ろです。そんな中、私たちのマンションでは一年ほどの準備期間を経て二〇〇六年七月に自主防災会を設立し、五年目を迎えた取り組みの中から、参考になればとの思いでご報告させていただきます。

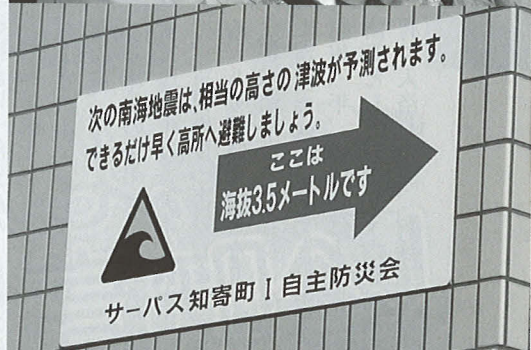
防災講演会で学び、訓練で わいわいがやがや、顔合わせ

「サーパス知寄町I自主防災会」

防災・防火訓練も毎回の企画に頭を捻りながら、毎年の必須訓練である通常の避難・通報・消火訓練に加えて、はしご車による高層階（九階）からの避難や防災資機材を活用した訓練、起震車体験、心肺蘇生法、AEDの使い方、炊き出し、ロープの結び方、避難袋の展示、天ぷら油に引火した鍋の消火法など、「飽きずに繰り返し」工夫をしながら訓練を重ねてきました。そして、その参加世帯も約六割ほどに達しています。

昨年度は「防災フリーマーケット」も開催し、収益金の一部をハイチ大地震の救援募金に寄付もさせていたできました。

自主防災会が発足するまでは、管理組合の理事会での顔合わせだけでしたが、防災会発足後は、役員会で



近隣の方にも津波への注意を呼びかけ



それぞれ工夫された避難袋に学びあう

高層階からの避難も体験



役立ててほしいオリジナル防災手帳



伝いをします」という世帯が二七％と最も多く、何らかの形で「いざ」というときは支援します」という世帯は半数近い四六％にものぼりました。

「助け合いのグッズ」として地域の防災マップは自主防災会の必須アイテムですが、我がマンションでは、それに加えて「安否確認プレート」なるものをマグネットシールで作成り、全戸に配付しています。これは、日頃は玄関ドアの裏側に貼り付けておき、日常的に目にすることで意識喚起しておいて、いざ地震発生時には、揺れがおさまった後に、救助を必要としない世帯はそれをドアの表側に貼り出します。プレートには「我が家は大丈夫です！」と書いてありますから、そこのお家の方に声をかけて、一緒に、手分けしながらプレートが貼られていない世帯を優

ロープの結び方を指導してもらう



の防災について意見交換や、訓練に参加するうちに、徐々にマンション内コミュニティの形成も図られ始めているのではないかとのご意見もあります。そして、今後も防災会のそれぞれの取り組みに積極的に参加してもらおう中で、住民のコミュニケーションが密に行き届く「災害に強いマンション」へと成長していければと願っています。

さらに、我がマンションだけではなく、自主防災会同士の交流を通じて地域の市民のすみずみまで「防災文化」を根付かせていくことが、次の南海大地震への備えの力となるのではないかと思っています。

さかもとしげお／サーパス知寄町I自主防災会副会長

救助効率を高めるための安否確認プレート

我が家は大丈夫です、他のお宅の救助に協力してください

今

から十三年前の一九九七年秋、高知県ふくし交流プラザの招きでひとりのおばあさんが来高しました。

おばあさんは、大川加世子さん。東京世田谷区の「コンピュータおばあちゃんの会」の代表で、「高齢者をネットワークでつなごう」という趣旨のシンポジウムに参加されました。高齢者にとって、パソコンが手、足、目、耳等の衰えを補って自立を助ける道具になるといい、離れて住む孫との会話を楽しんだり、独り暮らしの高齢者の孤独を癒す道具として、メール交流の楽しさを実践していることを紹介されたのです。

シルバー高知と 歩んで

老おコン いじいちゃん を楽しく むん々



門田喜作

高齢者を対象にしたネット上のコミュニティー(メーリングリスト)を多くの方々の支援を得ながら立ち上げたのは、一九九八年の四月のことでした。

立ち上げるにはまず、どういうコンテンツにするのかを考えなければなりません。ネットの性格を生かし、高齢者が持っている様々な思いや趣味の交流をインターネットメールを通じてすること。続いて、高齢者の定義は五十歳超えとしますが、交流に積極的な方なら、若者の参加も拒まないこと。そして第三に、できるだけオフミ(オフラインミーティング)。ラインをはなれ実際に会合をすること。オフ会を開くこととしました。今ひとつ、このリストへの参加は無償とすること。「老いを楽しむ」という明るいネットを目指そ

うと考えました。

十名でスタートしたメーリングリストは徐々に人数を増やし、三年後にはメンバーは二百五十名程度になりました。その後人数の増加はありませんが、十二年たった今も、約二百名の会員を擁しております。発足当時はたぶんパソコンの黎明期で、パソコンショップにも高齢者の姿が垣間見られる頃でありました。けれども高齢者がパソコンを学ぶとなれば、難しい状況がありました。そこで、シルバー高知のなかに勉強会を開くことにしました。

パソコン用語、カタカナ文字の技術用語などは高齢者にはなかなか理解しづらいものがあります。そのうえ、歳を重ねて参りますと、一度習ったことはすぐ忘れてしまいます。「お

勉強会のテキストは私の自作です。難しい語にはわかりやすい解説を付け加えたり、カタカナの言葉は平易な日本語に直したりしました。作ったテキストは、毎回インターネット上のディスク(Disk)

に私が転送しておきまして、各自が自宅のパソコンでそれを取り出し、自分でプリントして持参するという工夫をいたしました。こうした一見複雑な作業も、慣れれば高齢者の誰もができるようになります。

毎回三十名以上の参加者があり、勉強会はパソコン一般、メール一般、エクセルとワード、ホームページの作成と公開の仕方という風に展開していきまして、ほぼ十二年続きました。数年勉強を続けるうちに、パソコンが得意になる方が増えてきました。幾度も落筆をした先輩が新しい人につきっきりで指導する、という勉強もいつのまにか板について参りました。私が八十歳を迎えた初夏に、この勉強会は打ち切りました。

上達してくると仲間同士のいろいろな発表の場ができてきました。私どもは会員を「つれさん」と呼び合っていますが、作詞と音楽を得意とするつれさん達は、「いきいきライフシルバー高知」という歌をはじめ多数の歌を作って発表しています。この「ネット歌」はどなたでもホームページから聞くことができます。また、高知大学で教授をされていたつれさんは「銀の句会」を主宰し、毎月句会を開いて七十三回続いてきました。その他、ゴルフクラブ、囲碁クラブなど、老いを楽しむサークルが自発的に作られ活動しています。

オフラインミーティングでは、トロント在住のつれさんを訪ねる旅を

金はないが、暇はある」という高齢者ならではの要求に沿って、「無料! 卒業なし! 落筆あり!」という原則を作り、今日わからなくてもいつかはわかる日が来るという気長い勉強会にすることにいたしました。

献立てました。カナダ・イエローナイフでのオーロラ鑑賞のオフ会も開きましたし、東京や神戸のつれさんの企画した、関東オフ会、神戸オフ会を開きました。また、ほとんど毎年のように、春の花見時、秋の紅葉狩には、県内のオフ会を開いております。

シルバー高知にはつれさんからたくさんのメールが届きます。素敵なメールが送られてきたときには、ホームページに掲載し、会員だけでなく広く見ていただけるようにしております。平和の問題、地震の体験、母の思い出、随筆、などなど、ホームページにはつれさんのその時その時の思いが残されています。

いろいろと多彩な分野で、それぞれ才能にうち満ちたつれさん達が盛り上げてくださって、素敵な高齢者の交流が今も続いていると感じております。

私はもの好き、新しがり屋でありますので、いつのまにかこうした活動に繋がったのですが、現在八十一歳、いい老いを楽しんでいると思っております。

かどたきさく／シルバー高知管
(理人)



シルバー高知結成10周年記念



NPO法人 こうち音の文化振興会

「音楽の地産地消」・地元の音楽を楽しんで、
地域を元気にしよう!

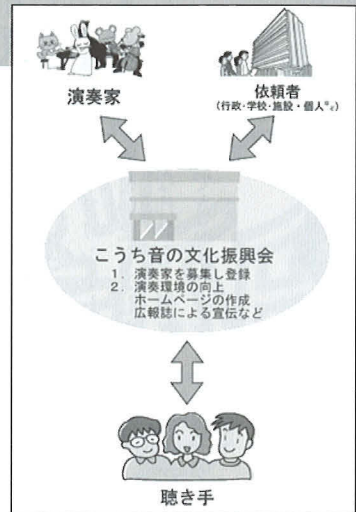
あなたも参加できる!
「高知の音楽文化」の応援!

玄瓶 充

NPOに関わるチャンスを得て

「音楽のNPOを立ち上げたいんだけど、協力してくれる?」

二〇〇八年末に、あるピアニストが私に話しかけてきました。彼女こそ、北村真実さん。NPO法人こうち音の文化振興会の理事長です。彼女自身が演奏者でもあり、いろいろな人と交流を持ちながら多くの音楽イベントを行ってきた北村さんの行動力を応援すれば、さらに高知を元気にできるだろうと思いい、私は参加することに決めました。



それまで北村さんの主宰する「音楽の広場カプリース」のホームページの作成などをお手伝いしていました。この機会に、本格的に高知の音楽文化の発展のための活動に関わることになりました。

高知県民と音楽家をつなぐ。

NPO法人こうち音の文化振興会は昨年五月に生まれました。当会の一番の目的は、「聴衆と演奏家をつなぐ」ことです。

具体的には、音楽イベントを開きたい依頼者の希望に応じて、高知県在住・関係の音楽家を紹介します。また、音楽イベントの企画の相談もお受けしています。

その良い例が、この春から始まった土佐市のパン屋さん「ベーカリー ショップイワゴ」での定期コンサートです。このイベントに私たちは、高知とのゆかりのある音楽家を紹介するという形で参加していて、五月は堀内佳、七月は大目真志・安藤千

織といった演奏家に出演いただき、九月にはグレイグースが出演の予定です。

広く高知県内のみなさんに音楽を楽しんでいただける場を提供できるように、演奏の場所の開拓にも力を入れたいところです。これは演奏家の活動の場を県内各地に広げ、活動を支援することにもつながります。

知られざる音楽の都、高知

私たちのもう一つの大きな活動は、「コンサートの告知」です。高知の音楽情報を多くの方に知っていただけるように努めています。

当会の設立準備段階の頃から、会報『おとの泉』を三カ月に一度発行、高知県内のすべてのホール、楽器店、ライブハウスや喫茶店などでも配布しています。プレイヤー会員をはじめとする地元ミュージシャンのコンサート情報、ライブハウス以外にも定期的にライブがあるお店の紹介や演奏家・音楽関係者のインタビューなども掲載し、高知の音楽情報が

ギユツと詰まっています! 今年の四月からは、「ツイッター」による情報配信も開始しました。おかげさまで千七百名以上(!!)の方にフォローしていただき、読んでいただいています。

会報の編集過程では新たな発見の連続でした。特に驚いたのは高知の音楽イベントの数の多さです。クラシック、ポップス、ジャズ、ほぼ毎日のように開催される音楽イベントの多さには圧倒されます。高知は「知られざる音楽の都」だったので、「おとの泉」やツイッターでの情報発信を通じて、ぜひそれをみなさんにお伝えしていきたいです。

楽しみなながらできる、
高知の音楽文化の応援

さて、ここまで私たちの活動を紹介させていただきましたが、まだまだ、力不足です。ぜひ、みなさんにご協力をお願いしたいと思います。

会報『おとの泉』はフリーペーパーです。作成にも郵送にも、費用が発生します。ぜひ、賛助会員としてこの「こうち音の文化振興会」を支えてくださいませんか? 年会費は個人三千円、団体五千円です。また、どんな会なのか興味を抱いてくださった方、ぜひサポーターとしてご



こうち音の文化振興会 自主企画コンサート Vol.3 「高知のボーカルパワー 観て聴いて!」(4月23日)

参加ください! 年会費千円で、お得な特典付きで一年間会報その他をお送りします。

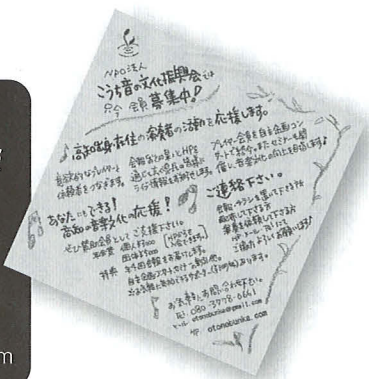
会報への協賛広告も募集しています。企業の方、事業を行っていらっしゃる方、会報に広告を掲載していただければ幸いです。

ほかにも、地域おこしに関心のあるみなさんとも連携していきたいと考えています。その集まりを「音の文化ナウ」という名前で開催していきます。参加をご希望の方、興味を持たれた方は、お気軽にご連絡ください。

高知県には、志高く意欲的な演奏者の活動はまだたくさんあります。私たちNPO法人こうち音の文化振興会は、さらに、自主コンサートを企画したり、演奏者の技術向上のための講習会や聴衆者向けセミナーを開いたり、会報そのほかの告知をすすめていきたいと思いいます。そして、県内すみずみに生演奏を届けていこうと思いいます。

会報『おとの泉』をさらに充実させ、この九月からデザインも一新することにしました。みなさん、『おとの泉』をどこかで見かけたら、どうぞ手にとって見てみてください。

音楽活動の応援のしかたはさまざま

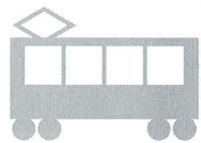


NPO法人
こうち音の文化振興会

http://www.otonobunka.com/
各種お問い合わせはこちらまで
〒780-0066 高知市比島町 4-7-32
音の広場カプリース内・北村
電話・FAX 088-824-0936
携帯 080-3778-0661
メール otobunka@gmail.com

くろかめみつる/NPO法人こ
うち音の文化振興会理事

本当に速い列車とは？



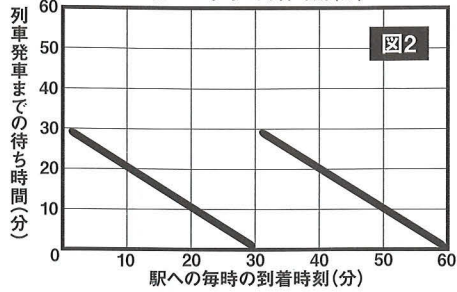
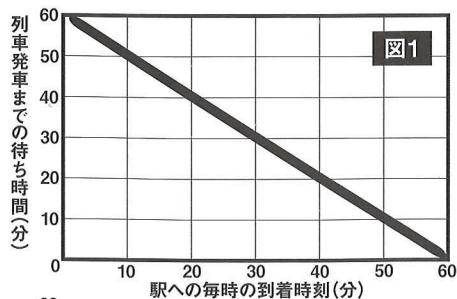
— 鉄道の速達性を支配するのは最高速度ではなく待ち時間である —

大内 雅博

先 進国において、すなわち経済力のある人はなぜ、鉄道ではなくクルマ（自家用車）を利用したがるのか。駅まで歩きたくない、混雑を嫌うなどいろいろな理由が考えられよう。

ここ高知では通勤者の大多数はクルマを利用してはいるが、東京などの

大都市圏ではそうではない。郊外から都心部への通勤者のほとんどは鉄道を利用する。駅まで歩ける距離であるとも限らず、また、ほとんどの乗客が座れないにもかかわらずである。そんな大都市圏でなぜ鉄道が利用されるのかと言えば、道路が渋滞するからである。移動手段としての鉄道を選択することとははや消極的理由によるものになってしまったと言える。



とまではや消極的理由によるものになってしまったと言える。鉄道がクルマからの選択に最も大きな影響を及ぼすのは、自宅などの出発地から勤務先などの目的地までの、トータル（ドア・ツー・ドアの）所要時間であるといつてよい。クルマの場合、クルマに乗っている時間

がほぼ出発地から目的地までのトータルの所要時間である。安全運転が前提であるが、基本的にはアクセルを踏むほど、すなわち最高速度を高くできれば早く到着できる。途中の渋滞や、目的地で駐車場がなかなか見つからずして余計な時間を要することはあるが。

一方、鉄道の場合、駅までの距離なり所要時間が利用を妨げる主要因ではあるが、さらに、結構無視できないのが列車の待ち時間である。個別輸送ではなく、不特定多数の旅客をまとめて運ぶことにより経済性を高めているのが鉄道である。予め定められた列車ダイヤと呼ばれる運行計画に基づいて列車が運転されている。要するに、適当な時間にふらつと駅に向いても待たずに列車に乗れるとは限らないということである。例えば、現在のわが国の地方部で、30分待てば乗りたい列車が確実に来る路線はどれほどあるだろうか。高速道路と競合しなければならぬ特急列車であっても、せいぜい一時間間隔である。

エネルギー・環境問題の高まりから利用促進のため、鉄道の高速化の必要性が叫ばれている。しかし、新幹線でも建設しない限り、線路を強化して新しい車両を導入することによる在来線の高速化には限度がある。せいぜい、最高時速を二〇から三〇キロあげる程度である。しかも、鉄

道には最高速度で走れない区間の方がむしろ多く、駅での停車もある。ただかか距離一〇〇キロ程度の区間で所要時間を10分も短縮するのは至難の業である。

では、鉄道の所要時間の短縮に最も効果的かつ効果的なのは何か。それが列車の待ち時間の短縮である。簡単な例で説明しよう。毎時00分にある駅を出発する列車の待ち時間を考えてみよう。00分にその駅に到着した人の待ち時間は0分、15分に到着した場合は45分間待ち、30分に到着した場合は30分間待ち、55分に到着した場合は5分間待ちとなる。この駅に乗客がランダムな時刻(分)に到着すると仮定すると、乗客の平均の待ち時間は30分間となる(図1)。では、この列車が二倍に増発され、毎時00分と30分に発車するようになったとする。ランダムな時刻(分)にこの駅に到着する乗客の平均の待ち時間はいくらになるか。答えは15分である(図2)。

線路を強化することなく高速車両を導入することもなく、トータルの所要時間を15分間も短縮することができるわけである。列車増発によるドア・ツー・ドアの所要時間の短縮は、鉄道がクルマの利便性に近づいたための極めて有効な方法である。

（おおうちまさひろ／高知工科大）
（学准教授）

言葉の現場から 23

広井 護

「鼻」のなぞを読み解く

芥川龍之介の名作「鼻」は、容貌に対する「劣等感」をテーマにしている。思春期の高校生にとってはリアル過ぎるテーマだ。以下は物語の冒頭である。

禅智内供の鼻と云えば、池の尾で知らない者はない。長さは五六寸あって上唇の上から顎の下まで下っている。：略：五十歳を越えた内供は、沙弥の昔から内道場供奉の職にのぼった今日まで、内心で「始終この鼻を苦に病んで来た。もちろん表面では今で「さほど気にならないような顔をしてすましている。これは：略：。自分で鼻を気にしている」と云う事を人に知られるのが嫌だったからである。

「は」と「も」の裏に、内供の心の秘密が隠されている。
T「内心で「は：苦に病んで来た」と

いうことは？」

P「表面では苦しんでいなかった。」
T「そう。すごく悩んでいるくせに、平気そうな顔をしていたんだ。」

「今で「さほど気にならないような顔をしてすましていた。」
うことは？」

P「昔も気にならないような顔をしてすましていた。」
T「そのとおり。「は」「も」から読めることは、内供はすごく悩んでいるのに、昔も今も平気そうな顔をしていたっていいことですか。これはなぜだろう？ 不自然だよな。」

P「鼻を気にしていることを、人に知られるのが嫌だったから。」
T「その通り。内供は自分の鼻に、つまり自分の容貌に何を感じているの？」

P「劣等感。」
T「ところが、劣等感を感じていることを人に知られるのが嫌なん

だ。ということはない？」

P「劣等感を感じていることに劣等感を感じている。」
T「そう。内供は二重の劣等感を持っているわけだ。複雑な心理だね。」

：という授業をしたあと、生徒たちに感想を書いてもらった。その中に、次の内容のものがあつた。
「内供が、鼻を苦しめているのに平気そうな顔をしているのは不自然だと先生は言ったけれど、私は自然だと思ふ。私も、あることに劣等感を持つているけれど、劣等感を持つていることに劣等感を持つているので、誰にも相談できない。劣等感とはそういうものだと思います。芥川龍之介さんは、そのことをよく知っていたのだと思います。」

なるほどその通りである。
内供がかかえこんでいる「二重の劣等感」は、実は「劣等感」というものの本質なのだ。「劣等感」は二重化するの其自然だ。芥川龍之介は、そのことを熟知して内供の人物設定を行っている。これは、卓抜な心理学といふべきだろう。

その上で芥川は、内供の長い鼻を短い普通の鼻に変えるという実験を行う。この実験を通して、「劣等感」のさらに奥深い本質がえぐり出される。そこで私は、導入部の授業のあとに、次のようなコメントをつけ加え

ることにしている。
T「髪の毛の淋しさを気にするナイーブな若者が書店で衝撃的タイトルの本を見つけた。「若ハゲは直る」。彼はその本をすぐに買うことができるだろうか。：できない。店員さんやまわりのお客さんの視線が気になって本に手が伸ばせない。本は、のどから手が出るくらい買いたい、自分が髪を気にしていることを人に知られることが、それ以上にこわい。」
内供の葛藤は、これと同じだね。そしてこういう葛藤は、劣等感の普遍的性格なんだ。

思春期は、劣等感を感じやすい時代。容姿のこと、成績のこと、性格のこと、家庭のこと、なんでも劣等感の材料になる。
「鼻」という作品には、「劣等感」の本質が鮮やかにとらえられている。と同時に、「劣等感」とどのように向き合い、それを乗り越えてゆくことができるのかという方向も、暗示されている。

言葉の表層だけではなく、裏まで掘り下げてこの作品を読み解いていこう。」
優れた文学作品の深層には、人間の

の本質が隠されている。
（ひろいまもる／土佐高校教諭）

JAZZCHOR FREIBURG in Kochi 2010

8月31日(火) かるぽーと大ホール

ドイツ・フライブルク市を拠点に、世界中で活躍するジャズコーラスグループ「ジャズコアフライブルク」。高知市では3年ぶり3度目になる彼らの公演をかるぽーと大ホールにて開催しました。

ドイツでジャズ?コーラス??と、未体験の方には「?」が広がるグループですが、その実力は、数々の国際コンクールで優勝するなど折り紙付き。また、そんな実力を持ったグループにもかかわらず、メンバーの多くは、それぞれに職業を持っている音楽好きな一般市民というのも特徴の一つです。

今回のツアーは10日間の滞在で、一行34名が室戸市、高知市、松山市、高松市、四万十町の5カ所で開催されるスケジュールですが、どの地の公演もすべて、音楽が好き!という市民有志による実行委員会が組織され、コンサートの開催はもちろん、音楽を通じた国際交流を実現しようと趣向を凝らした取り組みを行いました。

高知市では「こうち・ジャズコア実行委員会」のメンバーが牧野植物園や高知城といった観光名所を案内し、高知の良さをアピールしました。また公演前夜にはジャズコアフライブルクの指揮者、ベアトラント・グレーガーさんによるコーラスワークショップが開催され、その後のウエルカムパーティではワークショップ参加者の成果の発表の他、グループメンバーも入り乱れての音楽のプレゼント交換を行いました。

そして公演当日。かるぽーと大ホールには862名の聴衆が詰めかけました。通常のコンサートより早く開場し、開演までの約1時間、ホールのロビーではドイツビールやワイン、ドイツのオードブルを販売し、来場者はリラックスした気分でコンサートに臨みました。

ピアノトリオとコーラスをメインに、ジャズのスタンダードナンバーからポップソング、オリジナルのアカペラナンバーというバラエティー豊かな構成で、ブロックフルートのトビアス・ライジゲさん、ジャズボーカルのトールン・エリクセンさん、ボイスパーカッショングループのアカースティック・インスティンクトの3組のゲストミュージシャンのパフォーマンスがステージを彩り、聴衆からの大きな拍手が鳴り止みませんでした。



お詫びと訂正

2010年7月発行の文化高知156号「浅春」にひかれて4ページにおいて、旧制高校の数は33校ではなく、正しくは34校、「豪鯨節」ではなく、正しくは「豪気節」です。以上2点、お詫びと共に訂正させていただきます。

Poolはイオン東にある鉄骨の倉庫を改造した建物の中に、眠ったようにあります。モルタルで塗られた壁のロフトを持った高天井のギャラリーIと、それに通じる半外部的空間のギャラリーIIで構成されています。

外から見ると、大きな両開きの年月を経て錆びた鉄扉の中にギャラリーが存在しているの、通り過ぎてしまっ、なかなか見つけられないようです。

にもかかわらず、このアナログ的な倉庫ギャラリーをさまざまな方に利用してもらい、楽しませています。ギャラリーと隣接したカフェは、鉄・モルタルと無機質な部屋に、天井(兼屋根)が和紙と木で構成され、そこから外部からの木洩れ日が入って、来られた方は外観とのイメージのギャップも楽しまれているようです。

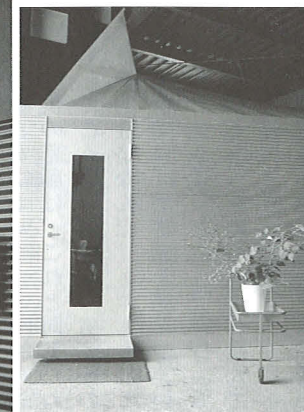
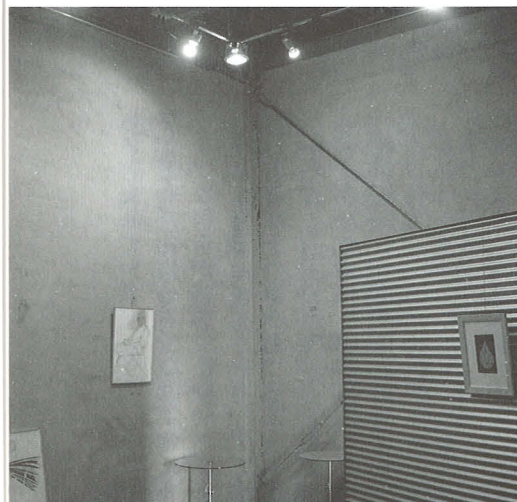
ギャラリーはジャンルを問わず自由に使われていて、はっとさせられることがあります。

こんなものもあかなという、とびぬけたアートを見せてもらえば、この空間をつくった甲斐があったと思います。たとえば小さな子供が描いた、キャンバス(画用紙)を抜け出してって帰ってこない原色の絵!

そんなものを見せてもらおうと面白いかなと思います。

Poolという名前(もともとは建築家の名前から付けたのですが)だって、ここで泳げるわけではなく、だけど、子供のころ、プールで泳ぐこと、川で泳ぐことが楽しかったわけで、このギャラリーもむつかしく考えないでのびのびと泳いでいただく、楽しんでいただく、ちょっと疲れたら隣のカフェ・Poolでじっと座って、まどろんだ時間を過ごす…。それはこのPoolをつくった時の思いです。

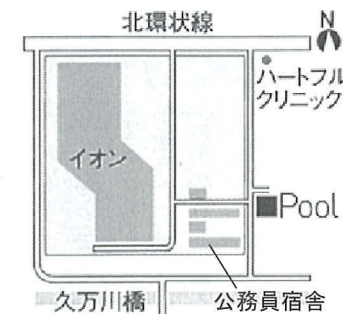
枠にはまらない創り手の方々に発表の場所として利用してもらって、カフェに来た方がそれを見て小さな評論家になったり、人との出会い、作品との出会いを楽しみつつ、ゆっくりと流れる時間を感じながら過ごしてもらえることがPoolの小さな願いです。(やまもとみよ)



高知のギャラリー17

Café & Gallery Pool

山本美代



Cafe & Gallery Pool
高知市秦南町 1-8-14
電話 088-825-1155
営業時間 10時~17時
定休日/日曜・月曜・祝日
ギャラリー開催中は日曜も営業
(~18時)

うたおう! おどろう!
アフリカ アフリカ

2010.9.23 (木・祝) 10:00 11:00 12:00 2:00
高知市文化プラザ かるぽーと小ホール
おとな 1,000 円 (※1,200 円) こども 500 円 (※700 円)

お問い合わせ (財)高知市文化振興事業団 088-883-5071 http://www.bunkaplaza.or.jp

風俗

スピード違反

先日、片側一車線から二車線に変わったとたん、「ねずみ取り」に捕まってしまった。五〇キロ制限つまり六〇キロでは捕まらないだろうと一キロ出た。違反は違反だが、どうも釈然としない。一カ所のほんの一瞬のスピードだけを測定して「はい罰金」とするのは、善意の運転者の多くを捕まえることになりはしないだろうか(自分が善意の運転者たというつもりはないが)。スピード違反で取り締まる時は、一〇〇なり二〇〇メートルの一定区間離れた二カ所を測定し、「恒常的にスピードを出してはならない」として捕まえるべきではないか。六〇キロで走っていたら、七〇キロくらいはすぐ出てしまふ。それでなければ逆

に事故を回避できないこともある、ともいえる。たとえは一方通行違反にしても、「危険であるから」という理由で出口近くで捕まっているが、危険ならば一方通行の入り口で注意すべきではないのか。悔しまぎれの「屁理屈」といわれそうだが、スピード違反に関していうと、二点間測定で、普段からスピード違反している常習犯をより多く捕まえることができるのではないかとはいえ、そういう常習犯は「ねずみ取り」の情報に詳しいだろうし、レーダー探知器を備えたりしているから、結局のところ「ねずみ取り」は善良な運転者はかりを捕まえているといえなくもない。まあこれからは、歩行者にも、「ねずみ取り」いやスピードの出し過ぎにも、一方通行や一時停止にも、いろいろな気を配らなくてはならない。

(株)



ジュリー&ジュリア

50年の時を超え、2つの人生がキッチンで出逢った。



©Lan Dao Hien, photo@Daho ©Central Film Sari, Morena Film SL, ButterWide Limited, Lunera Internasional Limited LBF 10, Inite, 2009, Studio Canal. All Rights Reserved

人生半分過ぎたら、やりたいことだけやろう。

50歳の恋愛白書

上映時間 (両日とも)		
ジュリー&ジュリア	①11:20	②15:25 ③19:25
50歳の恋愛白書	①13:35	②17:40

と き: 9月16日(木)・17日(金)
と ころ: 高知市文化プラザかるぽーと大ホール
料 金: 一般前売り1,300円(当日1,500円)
割引(前売り・当日とも)1,000円
※学生証、長寿手帳、障害者手帳などをご持参の方は割引料金
※前売り券は、かるぽーとほか市内各プレイガイドおよび指定のサニーマートで販売
※お問い合わせ: (財)高知市文化振興事業団 088-883-5071

今号の表紙

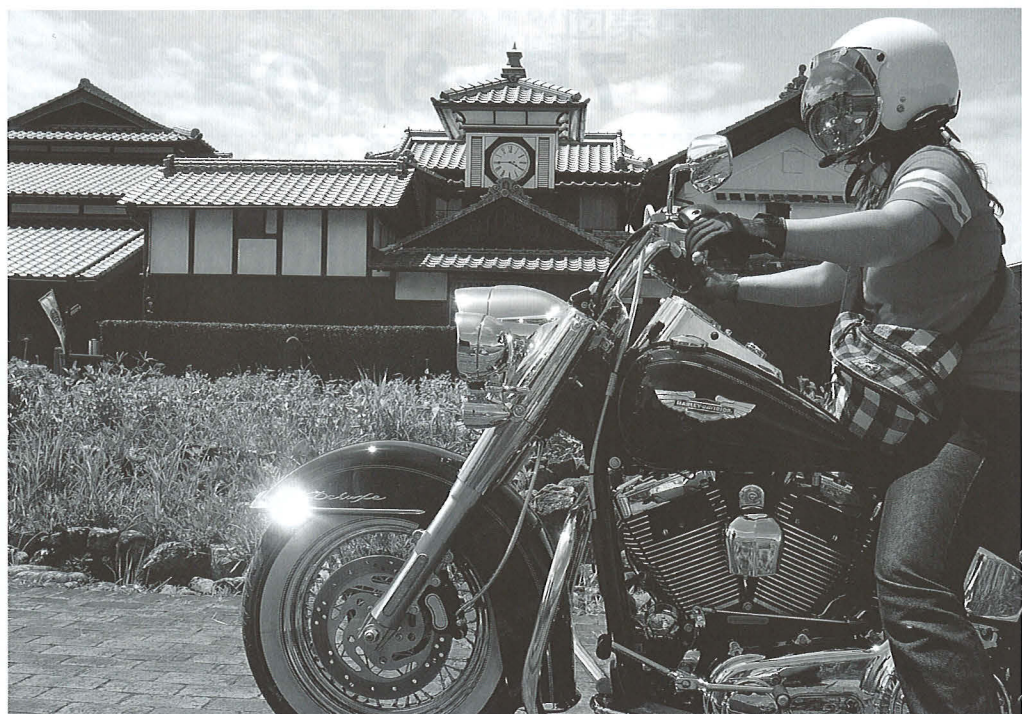
「明日、明後日の香り」

瀧石公子

幼い頃、薄暗い部屋や庭の片隅で感じた不安、好奇心、苛立ち、無音の世界など、漠然とした記憶と、今の自分が重なり合った時に浮かびあがるデジャヴのような感覚がテーマです。

日々の生活の中でふと足をとめて、自分を見つめるきっかけになれば幸いです。

(たきいしきみこ)



高知を撮る

第26回写真コンテスト入賞作品

野良時計の昼

(平成21年7月16日 安芸市)

竹村悦子

昔から皆を見守っている野良時計。きょうは、県外からの珍しいお客さんがやって来てくれました。

家族や親しい人の死は、本当に堪える。亡くなった人が子どもならなおさらのこと。長男の友人が、突然他界した。学校で部活をしている最中のことだった。その日の朝、いつものように我が家の横の公園に数人の同級生が集合し学校へ向かった。思春期にさしかかった男子生徒たちの姿は、真夏の太陽の下で輝いて見えた。まさかその中の一人が数時間後にいなくなる。一報を受けた時、耳を疑った。同時に、お母さんの気持ちを考えた。「息子が突然いなくなる」。どんなに思考を巡らせても、こればかりは想像を超えていた。私たちは、仕事をしたり学校へ行ったり家族と過ごしたりと、それが日々当たり前のように過ごしている。身近な人の死は、その当たり前前の生活にとても大切な気付きをもたらす。病氣予防は万全か、ストレスは溜まっ

「死から生まれるもの」



風俗歳時記

ていないか、栄養は三度の食事からしっかりとっているのか。事故や病気を未然に防げず、死によって最大の気付きがもたらされるのは、故人には申し訳ない。しかし、それをきっかけに事故や病気に十分気をつけ健康で生き長らえることは、亡くなった人が私たちに与えてくれた新しい基準の生き方でもある。人は二回死ぬという考え方があ。一回目は肉体の死、二回目は記憶から忘れられる時。家族や知人が亡くなっても、その人の存在を私たちの記憶に留めることも生きている人の役目のだろう。(立花香)

「宝くじ文化公演」

ミュージカル

アトム

©TEZUKA PRODUCTIONS



原案／手塚治虫

脚本・演出／横内謙介

音楽／甲斐正人

振付／ラッキィ池田・彩木エリ

監修／手塚眞

協賛／手塚プロダクション

角川エンタテインメント

共同制作／新宿区

あのミュージカル「火の鳥 鳳凰編」に続き、わらび座×手塚治虫作品第2弾!!

僕たちは愛から生まれたと、信じたい

2010年10月6日[水] 開場18:00 開演18:30
高知市文化プラザかるぽーと
大ホール 高知県高知市九反田2-1

チケット料金◆全席自由 一般2,000円(2,500円)
()内は当日料金 高校生以下1,000円(1,500円)

※この公演の入場料は、宝くじの助成により特別料金になっています。

前売チケット発売日◆7月3日(土)

入場券販売所◆高知プレイガイド TEL088-825-4335

高知大丸プレイガイド TEL088-825-2191

高知県立美術館ミュージアムショップ TEL088-866-8118

高知市文化プラザミュージアムショップ TEL088-883-5052

イオンモール高知 TEL088-826-8000

主催◎高知市・高知市教育委員会・(財)高知市文化振興事業団・高知県・(財)自治総合センター
後援◎高知新聞社・RKC高知放送・KUTVテレビ高知・KSSさんさんテレビ
NHK高知放送局・高知ケーブルテレビ・エフエム高知

お問合せ先◎(財)高知市文化振興事業団

TEL088-883-5071 <http://www.bunkaplaza.or.jp>

※未就学児童の入場はご遠慮ください。



宝くじは
豊かさ築く
チカラ持ち。

宝くじは、広く社会に
役立てられています。